

外部評価に係る2次評価一覧

調書番号	細事業名 担当課	1次評価		アドバイザーによる評価			2次評価	
		見直し 必要性	説明	評価者	評価 区分	説明	見直し 必要性	説明
21	産業技術短期大学校 産業人材課	有	<p>平成23年度に策定した「第9次山梨県職業能力開発計画」に沿って、施設整備や訓練内容の見直しなど、職業能力開発施設の再編整備を進め、平成25年4月に都留キャンパスを開校するなど、現在の体制となり3年目を迎えている。</p> <p>開校して以来、就職率はほぼ100%の実績を維持するとともに、県内就職率についても平均で90%となり、実践技術者を着実に県内産業界に送り出し、県立の職業能力開発短期大学校として責務を果たしているが、その一方で、専門課程及び在職者訓練の定員確保が厳しい状況であり、定員充足率の向上が課題となっている。</p> <p>このため、高校との連携強化を更に図るとともに、本校の認知度の向上のため、徹底した少人数教育、就職率の高さなど本校ならではの特徴等についてより一層の広報を行う。</p> <p>また、来年度策定予定の「第10次山梨県職業能力開発計画」において、県内企業や高校の生徒・保護者に対する意識調査などを通じて、定員充足の見込みや社会的需要等をとらえ、求められる訓練内容や規模等、産業技術短期大学校の在り方を反映した計画を策定し、カリキュラムの再編など、実践技術者の育成等を推進していく。</p>	小口	要改善	<p>設備が充実し、少人数の教育体制が整備されており、魅力のある状態だと思うが、残念ながら定員割れが続き、収支が他県の同様の施設と比べてもかなり厳しい状況にある。収支改善のための努力を色々されていると思うが、さらなる打開策を講ずることと、将来構想、中期的な産業短大の在り方を考えだす時にきている。</p> <p>具体的なポイントだが、第一点は厳しい収支状況なので、収支改善に向けてさらなる努力をお願いしたい。</p> <p>先ず収入の面だが、学生を確保しなければならない中で、短大の魅力アップすること、設備や教育体制は充実していると思うが、前回もその話はしたが、大手民間企業OBなどの各分野のエキスパートを講師として迎えるなどして、魅力をアップすることが一つポイントとなる。加えて、高校に向けて相当努力をして成果が上がっているようだが、さらに高校に向けてのPRの強化と産業界への強力なプッシュをお願いしたい。</p> <p>特に都留キャンパスは、地元の要望を受けて新設した訳で、ある意味業界の要望に応えているということだと思うので、学生の確保に対する応援の依頼、就職としての学生の受け入れを含めて、地元への強力なプッシュをお願いしたい。</p> <p>もう一つの収入の道である、在職者の訓練の増加ということが一つの方法であろうと思う。社会人、実際に仕事をしている人たちが参加しているので、やはり教える側もそれなりの人材が必要になる。これもその道のエキスパート、OBなどを活用するというのが良いのではないと思う。そういったことによって、地域中小企業の参加を促進するPRをお願いしたい。</p> <p>また、場合によっては、人気のある学科は定員を増加するということで、同じ経費でも収入が増える道を考えていただきたい。</p> <p>次に、支出面の改善だが、一つは学科の統合も検討しなくてはいいのではないと思う。指導員は、一訓練科当たり最低6名という国の基準があるようなので、定員割れが続くのであれば、機械科(生産技術科)、電子科(電子技術科)について、色々考えていかなければならないが、一本化もありうるのではないと思う。また、OBの活用もコストダウンにつながると思う。</p> <p>中期構想、これからの在り方については、高専の構想とリンクして、業界のニーズを把握しながら、検討していただきたい。</p> <p>それから、観光ビジネス科のように山梨ならではのもの、山梨の産業に合わせた学科の新設、あるいは定員を再検討することが必要になってくると思う。</p> <p>また、色々な職業訓練施設が県内にあるので、他の職業訓練施設を含めた全体としての効率化、在り方を検討してはどうだろうか。</p>	有	<p>定員確保対策として、知名度向上のためのPRを強化(各種学校説明会に参加等)するとともに、工業系高校との連携のみならず、普通高校の教師にも本校の特徴をアピール(普通高校との情報交換会の実施等)し、定員充足に努めていく。</p> <p>また、県内企業との連携を更に活発化(企業訪問、学生と企業経営者との交流会の開催等)し、企業ニーズに合った人材育成を進めると、産短大の魅力アップを図り定員確保につなげていく。</p> <p>更に、教育振興会などの企業に本校を積極的にPRし、学生募集に協力を依頼していく。</p> <p>在職者訓練についても、受講者ニーズ等を勘案した不断の見直しを行う。</p> <p>更に、来年度策定予定の「第10次山梨県職業能力開発計画」において、県内企業や高校の生徒・保護者に対する意識調査などを通じて、社会的需要や定員充足の見込み等を捉える中で、産短大の在り方も計画に反映することとし、必要に応じて訓練内容や規模の見直しを行うなど、引き続き県内企業が求める実践技術者の育成に努めていく。</p>
				五味	要改善	<p>県内産業・経済の発展を目的とする当施設が、どのように貢献しているのが見えにくい。産業界の要望に応じて設置した学科があるとの説明を受けたが、その要望に応じて設立した学科について需要とのズレが生じている。設置学科の見直しの検討の必要性はあると思う。</p> <p>学生及び教職員数について、本来正規の先生が常駐することは非常に望ましいが、学生の数が限られて非常に非効率な数であるため、その辺のバランスを再度考え直すと、収支の大きなマイナスという点にも改善がみられると思う。</p> <p>また、都留キャンパスの新設によって費用負担が増大した。地理的に通学が難しいとの説明を受けたが、そのことだけでは無いと思うが、(富士・東部地域の)学生の利便性ということだけで都留キャンパスが存在することはいかがなものかという感じはするため、検討いただきたい。</p>		
				諸平	要改善	<p>入学者の確保対策が現在の最重要課題。先生の努力にもかかわらず、外部環境の変化もあるので、観光ビジネス科以外は定員に満たない状態が続いている。今後もこのような状況が続くと、企業の求める人材とのギャップが広がってしまうため、さらなる高等学校との連携強化、入試制度の見直しを行い、生徒の募集に努めて欲しい。将来的には、学科やカリキュラムの見直しが必要になってくることも視野に入れていただきたい。</p>		

調書番号	細事業名 担当課	1次評価		アドバイザーによる評価			2次評価	
		見直し 必要性	説 明	評価者	評価 区分	説 明	見直し 必要性	説 明
22	図書館 社会教育課	無	当初の目標を大幅に上回る入館者数を維持しており、利用者満足度においても意図した成果を上げている。 今後も引き続き県民に対する学習機会や交流の場の提供などを推進していきたい。	小口	要改善	<p>図書館の目的のひとつである交流の機会の確保・提供については、来館者数はかなり多く、交流エリアの稼働率も上がっているなど、一定の成果が上がっているとみることができるが、読書習慣の向上の一つのカギとなる貸出者数や貸出冊数が減少傾向にあり、読書習慣という観点からは今後取り組むべき課題が多い。また、毎年4億円を超える県費が投入されており、収支の改善についての見直しが必要と認められるので、要改善と評価した。</p> <p>交流と読書習慣の2つが目的だが、成果指標が来館者数と交流エリアの利用者数となっている。貸出者数、貸出冊数も加えるべきで、それを達成するための具体策を盛り込んでほしい。もちろん蔵書の充実も不可欠で大切であることは認めるが、蔵書も利用されて初めて価値が生まれてくると思うので、ここに視点を置いていただきたい。</p> <p>2つ目は、職員数の問題だが、経費のうち人件費の割合が高い。同規模の図書館との職員数の比較表が資料として提出されているが、まずひとつは指定管理者の職員数と県の職員数との合算で考えねばならない。もうひとつは、手間のかかる業務は「交流」関係ではなく、「貸出」の方であるため、「貸出業務」と「職員数」のバランスという観点が必要である。それ以上に、民間では、本当に必要な人員は何人なのか、もっと少ない人員でまかなえないのかという観点が一般的である。図書館については、人員的にゆったりしている印象を受けたので、こうした観点から本来必要な人員配置についての検討が必要であると考えられる。</p> <p>3点目は、交流ルームの利用料金があまりにも安い。甲府商工会議所といった公的なところと比較しても、1/10以下という状況であり、ある意味、官の民業圧迫と言えると思う。利用料金は、条例で決められているとのことなので簡単にはいかないと思うが、県としての統一単価という発想ではなく、近隣施設との比較、立地コストなどを考えて妥当な金額への見直しが必要である。利用料金が見直しがされれば、指定管理者の収入も相当上がるはずなので、指定管理料をかなり低減できるのではないかと思う。以上のことについて、改善を検討してほしい。</p>	有	<p>読書習慣の定着に向けては、蔵書を充実させるとともに、図書館で開催されるイベント等と連携して関連する本を紹介するなど情報提供を積極的に行い、また、幅広い読書ニーズへ対応するため、市町村や学校の図書館を巡回し相互貸出等の連携を更に強化する。</p> <p>図書館の業務のうち、図書の出しだしカウンター業務については、利用者から職員の常駐を求められていることから、利用しやすい環境に配慮しつつ季節や曜日、時間帯による業務量の変動に対応できる配置を検討していく。</p> <p>なお、カウンター業務のほかに、講座の開催やシステムの運営管理、資料のデジタル化などのバックヤード業務があり、電子書籍やインターネット予約などの新しいサービスへの対応も必要となることから、全体として取り組むべき業務及び望ましい人員配置について、今後1年かけて検証していく。</p> <p>交流エリアの利用料金については、図書館という公共施設としての性格から、利益を上げることが目的としての料金設定はできないと考えている。なお、交流エリアなどの会議室の利用料金は、施設の運営に係る維持管理費、人件費について、受益者に負担していただくこととして、その経費の全てを反映している。</p>
				五味	要改善	<p>図書館の設置目的が、市町村立図書館と異なることの説明を受けてなるほどと思った。しかし、駅前的好立地であり、多くの県民に利用されていることを考えれば、本来の目的にばかりこだわるわけにはいかないと思う。現地調査の際の説明から、幼児期からの読書習慣を根付かせる努力はしていると感じた。しかし、活字離れ、読書離れの傾向にはなかなか歯止めがかからず、現在もその流れが続いている。県立図書館だからというわけではないと思うが、そういった(読書習慣を根付かせる)努力を必要があると思う。</p> <p>給と費についてだが、司書だけということではないと思うが、非常に人数が多いことに疑問を感じた。例えば、蔵書の貸出し、返却などの業務に図書館協力員をもっと活用できないか、地下の書庫に常に受付が必要なのか、レファレンスサービスの受付には常時人が座っていないくは役に立たないのか、外部委託できる作業は他にないのか、そのようなことを現地調査の中で感じた。今後検討願いたい。</p>		
				諸平	要改善	<p>平成24年11月の図書館開館以来、蔵書の貸出し、返却、蔵書点検などの業務はICタグを導入したシステムにより、作業時間の削減が図られており、単純に他県の図書館の職員数と比較することができるのか、と感じる。</p> <p>今後、職員の業務内容の見直しを継続的に行って、より良いレファレンスサービスを提供し、更なる来館者の満足度を高めるための検討を続けてほしい。</p>		